

# CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム 評価マニュアル(2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中区正木三丁目II 新築工事	階数	地上15F地下0階
建設地	愛知県名古屋市中区正木三丁目1105番、1106番1、1106番2、1107番、1108番	構造	RC造
用途地域	市街化地域、防火地域、準防火地域、商業地域	平均居住人員	126 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2026年2月9日
敷地面積	538 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	316 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月9日
延床面積	4,144 m <sup>2</sup>	確認者	



外観図を添付していただきます

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★ ☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

標準計算

①参照値	0	46	92	138
②建築物の取組み				91%
③上記+②以外のオンサイト手法				91%
④上記+オフサイト手法				91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.0
温熱環境	3.1
光・視環境	3.2
空気質環境	3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

機能性	2.2
耐用性・信頼性	2.8
対応性・更新性	2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	2.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	2.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源保護	2.2
非再生材料の使用削減	2.5
汚染物質回避	3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮	3.3
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
LED照明・ノンフロン断熱材を積極的に採用している建築物です。	特にありません。	
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。	<b>Q2 サービス性能</b> 給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の緑化により、良好な景観を形成している。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明や、玄関照明における人感センサーの採用など、一次エネルギー消費量を抑える対策を取ることで、環境負荷への配慮をしています。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 特にありません。	<b>LR3 敷地外環境</b> 十分な駐車場・駐輪場を設けています。また外部に漏れる照明について、点滅させたりしません。広告物照明も設けません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中区正木三丁目Ⅱ 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.5</b>
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



#### 2. 自然共生

評価点 = 2.3



#### 3. 循環型社会

評価点 = 2.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。